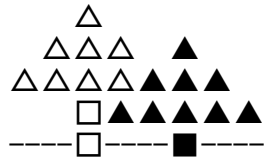


2005/11/21 =====



北海道立林業試験場メールマガジン

『北の森の達人』

Vol.11 第11号

□■□読者の皆様へ□■□

北海道立林業試験場メールマガジン『北の森の達人』は、北海道の森林・林業・身近なみどりに関わる情報を皆様に直接お届けするメールマガジンです。



□■□ 目 次 □■□

■刊行物ダイジェスト	光珠内季報 No. 140 平成16年度 北海道林業試験場年報 グリーントピックス No. 33
■ホームページの紹介	林業試験場施設の開放
■森とみどりのQ & Aで解決!	海岸・湿地等での植栽特集
■今日の達人のささやき	緑化樹センター管理技術科長 清水 一



■刊行物ダイジェスト1 光珠内季報 No. 140(2005.11発行)

◇北海道における緑化樹の地域適応性ーサクラ類の事例からー

(緑化樹センター 佐藤孝夫)

全道212市町村に対するアンケート調査並びに現地調査を行い、サクラ類6種について全道での生育状況(生育良好、生育不良、未確認)および植栽の適否(植栽適地、要注意地、不適地)を明らかにしました。

◇葉を観て過湿環境を評価するーアカエゾマツの葉から分かることー

(森林環境部 真坂一彦 他)

アカエゾマツの葉を用いて、滞水・過湿ストレスの影響を評価しました。針葉長には個体間差と年次間差があり、集水地形の谷部ほど、また湿潤な年ほど針葉長が短くなる傾向がありました。それゆえ、アカエゾマツの針葉長は滞水・過湿ストレスの指標となることが分かりました。

◇海岸地域に適した緑化樹選び(Ⅱ)ー塩風で枯れやすい樹種と枯れにくい樹種ー

(緑化樹センター 清水 一)

緑化樹の塩風による枯損被害状況を調査し、地域別に枯損被害の発生しやすい樹種を明らかにしました。また、樹種別に塩風による枝先枯れ被害の発生する海からの距離を明らかにしました。

◇アトリウムを道内自生植物で緑化する (緑化樹センター 石井弘之 他)

近年増えてきたアトリウム(建物内部の吹き抜け)において、北海道に自生する植物を利用した緑化手法を検討しました。使用可能な樹種の拡大や使用条件及び病害虫対策など課題は多いものの、今後の利用拡大に向けての可能性が示されました。

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/kiho/kihoh17.htm>

■刊行物ダイジェスト2 平成16年度 北海道林業試験場年報(2005.9発行)

◇平成16年度試験研究課題

◇平成16年度試験研究の概要

- ◆企画指導部(1課題) ◆林業経営部(11課題) ◆森林環境部(8課題)
- ◆森林保護部(4課題) ◆緑化樹センター(7課題) ◆道南支場(4課題)
- ◆道東支場(1課題) ◆道北支場(3課題)
- ◆外部との共同研究(10課題)

◇研究発表業績

◇技術指導並びに普及

◇物量の分析及び鑑定

◇林業専門技術員の活動実績

◇総務

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/nempo.htm>

■刊行物ダイジェスト3 グリーントピックス No. 33(2005.8発行)

- ◇濃紅色のチシマザクラ新品種 ～農林水産省に品種登録出願～
チシマザクラは、ミネザクラの変種（花柄や葉柄に毛が多い型）で、日本で最も寒いところに自生するサクラです。一般的にチシマザクラは、白から淡紅色の花をつけます。しかし、今回林業試験場では、“濃紅色の花をつけるチシマザクラ”の新品種を開発し、農林水産省に品種登録の出願を行いました。この新品種は、戦前に国後島から根室市に移され、実生増殖し育てられたチシマザクラの中から選抜したもので、組織培養によって増殖し、11年の歳月を経て、その性質の安定性を確認した後、今年1月、品種登録出願を行いました。
- ◇海の栄養、森に還る
森の栄養が川から海へと運搬され、様々な生き物に影響を与えることはよく知られていますが、栄養は森から海に一方的に流れ去ってしまうわけではありません。母川回帰という習性をもつサケ・マス類の遡上によって、海の栄養も川の上流へと運搬されているのです。では、サケが運ぶ栄養は実際に森で利用されているのでしょうか？
- ◇ヒバのミニチュア採種園に向けて
道南支場ではミニチュア採種園の技術をヒバ（ヒノキアスナロ）に適用する試験を行いました。球果を容易にかつ安全に採取できるように採種木の樹幹を1.2mの高さで切り落とし、7月に樹幹の根元にジベレリン顆粒（着花を促進する植物ホルモン）を一個体につき5mgずつ埋め込みました。その結果、試験した12本の採種木すべてが翌春に着花し、11月には球果を採取することができました。
- ◇平成16年台風18号による緑化樹の被害報告書を作成しました！
緑化樹センターでは、平成16年9月8日に北海道の日本海側を通過し各地に大きな被害をもたらした台風18号による街路や公園等の緑化樹に関する被害実態と今後の対策を取りまとめた報告書を作成しました。

<-刊行物詳細情報->
<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/topics/topicsh16.htm>

■ホームページの紹介・・・林業試験場施設の開放

この度、林業試験場では、北海道が管理する施設の有効活用によって新たな価値を生み出し、道民の皆様へのサービス向上を図る目的から、当場の研修宿舎の体育館及びミーティングルームの開放（有料：実費）を行うことになりました。ご利用をお待ちしています。

<-林業試験場施設の開放詳細情報->
<http://www.fri.hro.or.jp/kaihou.htm>

■森とみどりのQ&Aで解決！・・・海岸・湿地等での植栽特集

- 【Q1】海岸斜面への植栽に適した樹種にはどんなものがあるか？
- 【A1】樹木の耐塩風性は次のようにグレード区分されます。
- ◆塩風に非常に強い：ハマナス
- ◆塩風に強い：カシワ、耐塩風性ミズナラ（道北海岸産）、モンタナマツ、アキグミ、エゾノコリンゴ
- ◆弱い塩風には耐えられる：ハイネズ、トドマツ、アカエゾマツ、イタヤカエデ、ミズナラ（内陸産）、ヤマグワ、ギンドロ

- 【Q2】漁港に植栽した樹木が枯死したがどのような原因が考えられるか？
- 【A2】海岸近くで植栽した樹木が枯死する一番の原因は、冬期間の強風による塩風害です。塩風害は、適切な樹種選定と防風柵等の設置によって軽減できます。海岸など条件が厳しい場所では、排水性のよい土壌条件や適切な植栽方法なども生存に大きな影響を与えます。

- 【Q3】湿地への直ざしに適した樹種は？
- 【A3】タチヤナギ、イヌコリヤナギ、ナガバヤナギなど水はけの悪い場所にも強いヤナギを使用します。挿し木でなく苗の植栽ならば、ハンノキ（河岸ならばケヤマハンノキ）、ヤチダモなども利用できます。ドロノキ、ハルニレは河畔性の樹種ですが、湿地のように水が停滞する場所には向きません。

<-森とみどりのQ&A詳細情報->
<http://www.fri.hro.or.jp/qanda/search.asp>

■今日の達人のささやき

海岸地帯では海から吹きつける強い風に海水＝塩分が含まれているため、樹木が枯れる被害が見られます。北海道は四方を海に囲まれています。樹木の枯れ方は地域によって

違いがあります。日本海沿岸では海から遠く1000m離れても樹木は枯れますが、太平洋沿岸やオホーツク海沿岸は海から300m離れると樹木が枯れることは少なくなります。この理由としては、日本海沿岸は西から強い風が吹くため、海から多くの塩分が飛来してくるためです。また、樹種によっても海からの塩風で枯れる被害には差があります。シラカンバやヤマモミジは塩風で容易に枯れますが、カシワやクロマツは簡単には枯れません。このため、海岸地域において緑化樹を植栽する場合は、植栽する地域、海からの距離に応じて適切な樹種を選定する必要があります。

////////////////////////////////////

■発行・編集

北海道立林業試験場
〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山

■問い合わせ担当

企画指導部森林情報室情報管理科
メールマガジン専用電子メール mmgadmin@hfri.pref.hokkaido.jp

■記事の取り扱い

北海道立林業試験場メールマガジンに掲載された記事を転載することはご遠慮ください。

////////////////////////////////////